

2021 年総選挙総括声明

「野党共闘」の成果に自信を持ち

立憲主義回復にさらなる前進を

2021 年 10 月 31 日投開票の第 49 回総選挙において私たち東京 1 区市民連合は、立憲民主党、日本共産党、社会民主党の 3 党との間で、「政策・選挙協定」を結び海江田万里さんを候補者として確認、必勝をめざして選挙戦に臨みました。

海江田候補は 90,043 票を得たものの自民党候補に惜敗する結果となりました。しかし、比例において復活当選し衆議院の副議長に就任、新たな地平を築きました。この闘いにご協力いただいた全ての皆さんに、改めてお礼を申し上げます。

選挙結果は自民党が議席を減らしたものの、立憲民主党、日本共産党も議席を減らすものとなりました。これを受けてメディアでは「野党共闘の失敗」という報道が目立ちました。しかし結果をつぶさに見るならば、むしろ市民と立憲野党の共闘があったからこそ、立憲民主党の議席減少は一定程度食い止められたと言えます。

まず全体を見れば、59 の小選挙区で野党共闘は勝利を収めました。さらに東京 1 区で見られたように比例復活は共産党の 1 人も含めて 40 人にのぼっています。立憲民主党だけで見れば、小選挙区では前回より 9 議席増やし、比例代表では 23 議席減らしています。

小選挙区の「惜敗率」では、自民党候補者に 90%以上で負けた野党候補は 33 人にのぼっています。これは野党共闘の宣伝や政策がもっと行き届いておれば、当選できた可能性を秘めていることとなります。それ故に自民党は野党共闘を目の敵にしているのです。

ではなぜ立憲野党が後退し、東京 1 区で議席を落とすことになったのでしょうか。

一つは自民党が、新型コロナウイルス対策に対する国民からの批判が強まった菅義偉首相（当時）の総裁選挙出馬を取り下げさせ、新たな総裁を選出するという「奇襲作戦」に出たことがあげられます。

その結果、安倍・菅政権の政策をそのまま引き継いだ岸田文雄政権が誕生しました。代表の顔を変えただけの自民党は、総選挙において議席は減らしたものの単独過半数を確保しました。コロナ対策への与党の対応を批判した国民の目を、総交代でそらしたことが一因ともいえます。それを批判しないメディアの責任を軽視できません。

合わせて選挙戦は野党共闘への攻撃が強まり、結果として中道を装った日本維新の会が躍進しました。立憲主義を取り戻そうという野党共闘の大義が浸透しないまま、選挙戦に突入した結果とも言えます。

政策の面からは立憲野党と市民連合が結んだ協定は、国民のいのちと暮らしを守る視点から自公政権より優位性を持っていました。東京 1 区においても、冒頭で述べましたように政策協定を結びました。しかしこの政策の優位性を有権者に浸透できなかったことは事実であり、今後の教訓として生かす必要があります。

総選挙の結果は、「野党共闘」が立憲主義を回復し、自公政権に終わりを告げる大きな役割を持っていることと、その方向性こそが揺るぎないものであることを証明しました。いのちと暮らしを守り、立憲主義を回復させ憲法を守るという市民連合誕生の原点を改めて確認したいと思います。

その立場から来年 2022 年に行われる参議院選挙において、市民と野党のさらなる連携を強めることを誓いつつ、総選挙総括の声明とします。

2021 年 12 月 14 日

東京 1 区市民連合呼びかけ人会議